

「精一杯のささげもの」

～私たちが目指すもの～

「彼は悪いおとずれを恐れず、その心は主に信頼してゆるがない。」詩篇112章7節

世界は変化しつつあります。米国やお隣の韓国は大きな変化を求められています。私たちの住むこの日本も例外ではありません。問題はどのように変化していかなければならないのか？です。そのカギを握っているのは、もちろん国の為政者の方々であり、リーダーたちだと私たちは表面的には考えています。

「War Room〔日本語名「祈りの力」〕という映画が昨年ソニーピクチャーズによってこの日本でもロードショーとなりましたが、都心など限られた映画館でしか上映されないままになっていましたが、この度、DVD化されました。

その内容は今のアメリカの現状とそれに対するクリスチャンたちによる革命を描いているように感じました。韓国もキリスト教国でもありますが、問題を起こした大統領が大いにうちめされています。一体、韓国のクリスチャンたちは朴大統領をどのようにとらえているのでしょうか？もちろん間違いを正したいと願っているのですが、きっと心を痛めて熱心に祈っていることでしょう。この日本ととても深い関係にある両国のために私たちも祈りたいと思います。

先ほどの映画「祈りの力」では、ある夫婦の関係の危機をある熱心な祈りの戦士でもひとりの老婦人が助け導くという内容になっています。アメリカ人の80%は自称クリスチャンと言われていますが、その実は時々教会に通う、聖書は読まない、祈らない、世の人たちと全く変わらない人生を歩んでいます。しかし、そのベースには聖書や信仰がありますので、私たち日本人とは全く違います。ですから、この映画の内容をすぐにそのまま私たちの生活に当てはめることは難しくありますが、クリスチャンのあるべき姿ということに関してはとても大切な内容を表現しています。

私たちが問題に立ち向かう時、人間関係の問題であれば、その相手を敵と誤ってしまったり、相手を正そうとしてしまいます。そうすると、本当の敵である悪魔にまんまとやられてしまいます。私たちに問題が起こった時に、まずすべきことは主を礼拝することです。良いことが起こって主に感謝をし、礼拝を捧げることはたやすいことですが、問題の真ん中で、とことん主を賛美し、礼拝することをお勧めします。イエス様は十字架のお苦しみの直前に、弟子たちの前で主に心からの感謝をお捧げ致しました。横田早紀江さんがクリスチャンになったきっかけは最大の苦しみの中でも主を信頼し、賛美を捧げたヨブの信仰を見たからでした。

この時代にこの日本において私たちができる最大の証は、いついかなる時にも揺るがない信仰を示すことではないでしょうか？そのためには日頃からの実質的な信仰の訓練が必要です。十字架の上でも愛を貫いた主イエス様に倣っていきたいと思います。